

11月20日

テーマ：「^{きょうかい}教会による^{はけん}派遣」

聖書箇所：使徒の働き13章1節～3節

◆今日のみことば

そこで彼らは、断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した。

使徒の働き13章3節

◆メッセージ

神さまは、私たちが教会に集まることを喜んでいて、そして、教会に集まる人たちの集い、つまり教会の交わりの中で生きるように私たちが置いてくださっています。教会の交わりで、嬉しいことを話したり、少し辛いなと思うことをお祈りして欲しいこととして教会にいるお友だちやお兄さんお姉さんに伝えたりします。また、教会に来られている方からお祈りして欲しいことを聞いて祈ったり、誰かを助けたり、教会の交わりの中で奉仕をします。そうやってイエスさまのことを伝える働きができます。それらはすべて、神さまが与えてくださった素晴らしい恵みです！そして、みんなが集まる教会の大切な働きですね。

バルナバさんやサウロさん（あとで「パウロ」と名前が変わる）は、アンテオケにある教会に集まっていました。神さまのために、そして教会や地域の人たちのために、素晴らしい働きをいくつもしていました。

その教会には、いろいろな言葉をしゃべる人たちや生活の仕方、お仕事も違う人たちもいたようです。

考え方が違う人たちも多かったと思うと、神さまの働きのために相談することもたくさんあったでしょう。もし相談していたことの答えが違ったりしたらどうでしょう。「私が代表してお祈りをする！」「あの人は何でもできるから宣教チームのリーダーになったらいいな。」それらの思いは良いことですが、神さまの思いはどうだったのでしょうか？



アンテオケ教会の人たちは、教会に集まる人たちと良くお祈りをしていました。どんな時でも、心を合わせて神さまに信頼して礼拝をささげていました。するとアンテオケ教会の人たちは聖霊を通して、神さまの素晴らしいご計画を知りました。それはアンテオケ教会のリーダーだったバルナバさんとサウロさんがイエス様を伝えるために世界へと旅に出ることになったのです！つまり、宣教師として神さまと教会の人たちの中から選ばれて遣わされることになりました。自分の考えや思いが一番ではなく、神さまのご計画を第一にしました。

神さまは、私たちが教会の交わりから神さまのために働くように導いてくれます。私たちは、教会の交わりの中で礼拝をささげ、祈り合う時、どんな働きでも、どこでも神さまのために働くことができます。



◆お祈り

「教会の交わりの中で祈られていることを知り、どこでも、イエスさまの弟子として神さまのために、神さまの願っている働きができるように、私を用いてください。」 (学園前聖書教会牧師 吉田 篤)